

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201042		
法人名	有限会社 かけはし		
事業所名	グループホーム かけはし		
所在地	福岡県福岡市西区愛宕南二丁目13-23		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果確定日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JivovsogCd=4071201042-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成27年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利便性の高い市街地に位置し、コンビニ、喫茶の利用、買い物等を支援し、地域の一員としての暮らしの営みを支援している。元医院としての基盤や代表者がここで生活していることから、関係性を積み重ね、地域の中での存在を高めている。
 野球観戦や観劇等外出の機会を作り、室見川の白魚や中華料理の夕食にも出かけた。ボランティアも書道、お話し、三味線演奏等お話し、趣味を持ち充実した時間を持って頂ける様に努めている。
 職員に研修の働きかけを行い、定期的に資質向上のための機会を設けている。季節の行事、料理を皆で大事にし、四季を感じ、楽しんでもらえるように工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が考えた「自由に選択し、自由にいきる」を理念とし、入居者はのんびりと穏やかに過ごされており、事業所は外出支援に特化して、日頃から近隣の散歩や野球観戦、観劇、季節を感じるような外食をするなど支援している。事業所は以前産婦人科を営んでいた建物をそのまま利用し、代表者は4階に居住しており、「同じ屋根の下で共に暮らしている」思いを強く持ち、毎朝入居者一人ひとりに声かけを欠かさず行い、不穏な様子がないか観察して、その情報を職員に伝えている。最近事業所は訪問看護事業所と契約して、普段の入居者の体調管理を行い、不調の早期発見をして24時間連絡可能な体制を整えている。ある入居者の方が事業所の不燃ごみの仕分け、ゴミ出しを社会貢献のひとつとの思いで積極的にされている様子を見ることもできた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「自由に選択し、自由に生きる」を基に 残存機能を最大限尊重し、自立支援を念頭 においている。会議の折には全員で唱和 している	創立当時から理念を共有し意識付けしや すいようにミーティングの折に、リズムを付け 職員全員で唱和している。日々のケアでは、 代表者が考えた理念の一つで「自由に選択 し自由に生きる」を念頭に入居者の意思を踏 まえたサービスを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自身が地域の一員として日常的に交 流している	代表者は町内会に加入し、入居者ともに近 隣への買い物、地域行事の参加等、地域 の一員として活動している。元医院としての 基盤もあり、存在を高めている	ボランティアの方や民生委員、両隣のマン ションの方が頻繁に来訪している。また写真 撮影が得意な知り合いから、外出支援先の 紅葉風景の写真を頂いたり、地域の防災訓 練への参加、近くの喫茶店やコンビニに出掛 けて日常的に交流を図っている。	事業所の在り方や認知症について の理解を深めてもらい地域密着型サー ビス事業所としてのアピールをさらに 工夫されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	見学、ボランティア等、いつでも受け入れ、 開かれた事業所づくりに努めている。 散歩、買い物の利用を行い、会話をもち、 相談等いつでも受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	定期的に入居者、家族、地域住民、地域包 括支援センター職員、児童・民生委員の出 席を得て開催している。行政担当者への案 内も行っている	偶数月に会議を行い、必ず入居者家族の参 加が出来るように早くから呼び掛け参加に 至っている。会議では認知症ネットワーク情 報やコミニティーの大事さや季節ごとのケア の注意点など、意見やアドバイス、要望が話 し合われている。	次回のテーマ決めは行われているの で、会議で話し合われた事柄をより深 く掘り下げた内容で取り組みをさらに 充実されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者より、アドバイスや情報の提供 を受けながら、連携を行っている。 病院のソーシャルワーカーさんとも連携を 図り、介護計画についても検討している	事業所より行政担当者には運営推進会議の 案内、会議録を郵送し毎回の便りを出してい る。また運営推進会議に行政担当者が参加 頂い時には「認知症ネットワーク」情報、熱中 症やノロウイルス対策についてアドバイをも らっている。市のアンケートにはすぐにファッ クスでの回答に対応して協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体 的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行わず、様子観察を重 視し、見守っている。 内部研修でもより良いケアの実践につい て、共有認識を図るよう取り組んでいる	日々のケアでは、丁寧な言葉遣いを念頭に 理念が実践できるように施設では施錠は 行っていない。入居者の様子を観察し個人 の行動パターンの把握に努めている。ミーテ ィングの際には研修で学んだ職員が講師役 になり他の職員にプレゼンテーションする形 で報告し皆で身体拘束しない事の周知に努 めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の暴力に対しても危険がない様に関わり、その方の気持ちを理解するように、日頃からよいケアができるように努めている。気になる時は、個人によく話を聞き、対応している			
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用している入居者がおり、会議の中でも取り上げ、職員の理解を深めている。 福岡市市民後見人養成講座の実習生の受け入れも行った	以前、日常生活自立支援を受けている方が、今現在は成年後見制度を利用するようになっている。毎月のミーティングでは介護ケアとともに内容の理解や必要性について話し合っている。市の市民後見人養成講座の実習生も受け入れ現場体験をしてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に見学して頂き、契約書の説明を行い、持ち帰ってもらっている。その後、改めて質問があれば再度お伝えし、納得して頂いている			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、定期的に家族の参加を得ている。入居者の希望による野球観戦、外食、観劇など、外出時には家族にも案内を行い、共に過ごす機会を確保している	運営推進会議には家族の参加は必ずある。以前は意見箱の設置はあったが今は、ケアマネージャーが直接家族に声かけを頻繁に行い、意見を聞くようにしている。入居者の希望で家族にも協力して頂き、野球観戦や外食支援、観劇に出かけて行く機会を多くもっている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、必要に応じてその都度のカンファレンスを行い、意見を出し合っている。 普段でも職員の要望を受け止めている	毎月のミーティングでは代表者やケアマネージャーが職員に声かけを行い意見が出しやすいようにしている。また、普段から職員の意見を聞き、個人の介護計画に反映している。申し送りノートではそれぞれの職員の日々の思いやケアについて記入されている。	申し送りノートにはいろんな日々の意見やケアについて述べられているので、職員のモチベーションアップにつながるような「ありがとうノート」形式の活用を試みる思いがあるので期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社時には仕事の内容説明、見学も自由で、個人の都合を聞いている。 管理者は休暇等、希望シフトに応えられるように工夫し、職員が働きやすい環境づくりを行っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用に当たっては、年齢、性別によって採用対象から排除する事はない。 外部研修参加に向けたサポートを行い、個別のスキルアップを奨励している	職員の募集には特に制限は設けていない。採用には「人となり、人間性」を重んじている。職員の年代は20代から70代まで幅広く男女で勤務している。また国籍にこだわらず働く意欲を重視し採用している。個別に職員のスキルに合わせてサポートを行ったり、研修で学ぶ機会を設けたりしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	一人ひとりの人権を尊重する為の言葉かけや関わり方を毎月のミーティングで話し合っている。疑問や問題がある時は討論し、勉強している	人権教育、啓発活動には特に時間を設け、日々のケアから振り返り具体的な内容で話し合っって対応している。言葉遣いや排泄時の羞恥心に配慮したケアを細かく職員に伝えている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個性を尊重し、その人の好さを伸ばせるように支援している。外部研修を推進し、研修後は再度、内部研修での発表の場を設けている。 無理なく仕事ができるように支援している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会があれば参加者の呼びかけを行い、参加を勧めている。 各種の介護サービス業種経験者を受け入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境づくりを行い、傾聴し、全人的に受け入れている。 こちらの立場も分かりやすく説明し、安全で安心して頂けるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ多くの家族と面談を行い、その思いを汲み取るようにしている。入居者への意向もお尋ねし、介護計画に繋げ、満足のいくケアができるように努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を確認し、希望を尋ね、どのように行っていくのが良いのかを検討している。 その上で、できること、できない事を説明し、理解を得ている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割分担を考え、お互いに助け合える人間関係づくりに努めている。 冗談を言ったり、笑いあえ、遊んだりできる関係づくりを進めている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を歓迎し、お願い出来る事は任せて、一緒に行動する機会を作っている。 家族への声掛けを心掛け、ご意見は真摯に受け止めている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連携を図りながら、法事や墓参り、盆、正月の外出を支援している。 近隣への買い物、行事の参加等、地域住民としての関係継続を行っている	入居者の思いを重視し、宿泊、外出と自由に選択できるように支援している。入居者が以前住んでいた地域に職員と出掛けたり、家族と連携してお墓参りや入居者希望の理髪店に行く支援を行っている。また、近所の散歩や買い物へ出かけてたりと継続的に支援をおこなっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを図れるように、毎日時間を設けている。 井戸端会議のような場を作ったり、見守りをお願いしたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談は受け入れ、アドバイスをを行っている。 入院時は面会に出向いたり、家族と連絡を取り合ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念のもと、外出や嗜好品の摂取、晩酌の継続等、柔軟な対応と支援を行っている。 意向の把握の困難な方には、家族からの情報を受け、本人本位に努めている	入居前は喫煙や飲酒をされていた方もおり、習慣を止めることなく、外のテラスで喫煙出来るようソファを置いて、その方の意思が継続出来るよう支援している。「自由に選択し自由に生きる」を理念とする想いを実践しており、無理されること無く暮らしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報を入手し、個人ファイルにしている。 面会の折に、関係者から、話を聞き、記録として残している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、できるだけデイルームで長く過ごして頂き、皆と一緒に楽しんでもらえるように支援している。 見守り、気付きは日誌に記入し、把握している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の「ケアプラン実施表」記入により、介護計画に基づいた実践について、意識付けを行っている。 家族からも聞き取りをし、入居者参加でカンファレンスを行い計画の見直しを行っている	個々の介護計画書の記録もなされており、計画に基づいたサービスが実施されている。 必要な介護サービスをするために、外国人の介護者にも理解出来るよう、手順書にふりがなを付けている。入居者はほぼ安定した容体を維持しており、半年ごとにモニタリングを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「総合ケア記録」を毎日、職員で個人ごとに、一日の様子がわかるように記入している。 「介護日誌」にも変化があった重要な事は記入し、引き継ぎを行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様子観察をして、ソワソワ等、外出支援の必要を感じたら、柔軟に対応している。 お手伝いもその方の希望で行ってもらい、感謝の意を表している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園や、病院も歩きや車椅子対応で、一緒に出掛けたり、ご近所のストアでの買い物を行ったり、喫茶を利用したりしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、なければ協力医による往診を受けている。その他のかかりつけ医の受診は家族と協力しながら、適正な医療を受けられるように支援を行っている	月に二回、協力医療機関のドクターが往診しており、体調管理の支援をしている。新たに事業所は訪問看護事業所と契約して、週に一回、看護師の訪問も受けている。受診は、家族の支援をうけて行なわれている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員である看護師とも連携を取り、看護的な把握も十分行っている。褥瘡などの処置も的確に指導を受け、介護士も学びながら対応している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に向き、様子を伺い、家族や医師、ソーシャルワーカーと面談を行い、退院に向けての検討を行っている。退院後も必要に応じ、アドバイスを受けている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りにかかる指針」を提示し、方針を説明し、同意を得ている。必要時は管理者、医師、看護師、家族、入居者、ケアマネ、スタッフと担当者会議を開き、これからの方針を検討している	最近、新たに「看取りにかかる指針」を作成して体制作りを準備している。職員は入居者と最期の時間を一緒に過ごして看取りの経験をしている。終末期になられた時は、家族、ケアマネジャー、職員と話し合いをし個々に合う支援をしている。	今後さらに、看取りが必要な入居者がいらっしやることを想定し、職員への勉強会などを開いて、準備体制を整えていくことを期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、対応を掲示、マニュアルも目に付く所に準備している。研修の機会を逃さないようにし、参加者は他の職員にも教えている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いのもと避難訓練を実施している。訓練には地域住民の参加を得ている。地域の避難場所としての活用も視野に入れている	入居者も参加した消防訓練の記録があり、昼・夜避難訓練はなされている。元々病院施設なので防災設備は整っている。地震対策として、平成28年を目処に建物強化する予定である。運営推進会議に出席されている防災に詳しい方からアドバイスを受けている。	今後は、地域の避難場所としての事業所になるよう将来的に考えているので、備蓄品の準備、近隣の方々への意向確認をしたり、職員の役割手順のマニュアルを用意されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務の中で、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。 特に排泄や入浴時の声掛けには細心の注意を払っている	外国の職員もいるために、入居者への声かけには、特に気を付けている。聴力が弱い方へ大きな声で話しかけたりしないように、また排泄介助時の声かけには特に配慮するように、気付いた時は、事業所のケアマネジャーがその都度きちんと話をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に寄り添い、声かけをし、話をしてもらえるようにしている。 自身で働きかけられない方は表情、動作から汲み取るように努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールの強制はせず、提案のみを行い、気分や状態を見守っている。 自由に過ごせる様に支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	〈整容チェック表〉を作り、爪、顔、髭等整容についてチェックしている。 毎日の洋服を確認し、外出の際はアドバイスを行っている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のレシピを用意し参考にして献立を作り、それぞれに考えて季節の食材を購入し、食事の準備をしている。 行事食を用意したり、外食の機会も作っている	家庭的な献立で、高齢者の好みの味付けでとても美味しく入居者は完食している。材料の買出しは入居者と一緒に行き、2ユニットそれぞれに職員が交代して調理をしている。 1日にはお赤飯を出したり、恵方巻きなど季節に応じた食事提供を心がけて、外出支援も兼ねた外食も行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に好き嫌いを配慮したり、形状を替えて提供している。 水分摂取に努め、完食できるように支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	〈整容チェック表〉で、口腔ケアを忘れないように行っている。 その方の能力に応じ清潔にできるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを「排泄チェック表」に時系列で記入し、それを参考に排泄支援を行っている。 できるだけ自立支援できるように介護している	入居者の排泄チェック表の記録があり、個々の排泄パターンを把握して声かけしている。 毎朝、牛乳を飲むことで便秘対策がなされている。半数ほどの方は自立し、支援の必要な方は尿路感染しないように気遣っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘、食事に対する研修を受け、皆に周知し、対応している。 下剤も「下剤チェック表」を作り、的確に使用できるように検討している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、ローテーションで入浴して頂いているが、拒否される傾向のある方には、卒外の対応をしている。 体調に合わせ、柔軟に対応している	一週間に二回の入浴を支援しており、異性介助はあるが意思確認後に行われ、個浴で二人介助をし安心安全な入浴をされている。 拒否される方には、家族からの電話として職員が扮して話をすると、納得して入浴された成功例もあり工夫した対応がなされている。 入浴後の保湿ケアもして、皮膚疾患にならないようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力に合わせ、午睡を促したり、夜、少し長めにリビングで過ごしてもらったりと良眠できるように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等は明らかにし、処方箋も都度、ファイルしている。 服薬には看護師の指示の下、最大の注意を払い、服薬介助し、チェックしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、ゴミ捨て、お茶碗拭き等、出来る方には役割をお願いしている。 趣味のピアノ、ダンスなどは自由に出来る様、書道は定期的にボランティアの方に習っている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「外出チェック表」を作り、順番に一人ずつ散歩等お連れしている。 家族の方にも外出、外泊はいつでも自由に対応してもらっている。 観劇、野球観戦のチケットの寄付がある時は支援している	事業所の立地が街中にあるので、近隣のお菓子屋、喫茶店、コンビニ、公園などに、理念のもと自由に出かけられるように自立支援している。「今しかないよ」と代表者や職員間で同じ想いを共有して入居者に接しており、外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には定期的に少額のお金を渡し、自由に使ってもらっている。 お金を預かり、必要な物の買い物を支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話も手紙も受け付けている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファを置き、テレビを設置し、寛がれる環境を作っている。 テラスがあり、喫煙所、メダカも飼育していて、日光浴も楽しめる。 写真等を掲示し、話のきっかけとなっている	日中はほとんどの方が居間で過ごしており、男雛女雛の人形が置かれて季節が分かるようにしている。レクリエーションの書道で書かれた作品やクリスマスの写真が壁に貼ってあり、話題作りになっている。三階の外のテラスには、ゆっくりと喫煙出来るようにソファが置かれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には形の違うテーブル、それぞれの椅子があり、入居者の書、作品等を掲示し、居心地の良い空間を作っている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの好きな物を持って来てもらい、使用されている。 間取りや設備はそれぞれ異なり、その方の必要性や動きに配慮している	個々の居室には、以前使っていたタンスなどが置かれ、家族の写真を貼っている。床には、三畳分の畳を敷いている部屋もあり、個々の状態に応じ、日常生活動作に合わせた居室への配慮が見受けられる。扉の開閉は個人が自由に行っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、ドアの調整、動線を考えている。 物品の整理、換気等、日々快適であるように努めている		